

「箱の中の4人」

作・滝本祥生

人物

金沢寿子(としこ) (36) 保険の外交員。

近藤定美(さだみ) (32) 派遣社員。

島 沙織(30) 「アンビエンテ」の女性オーナー

園 真理(24) コック見習い。

時 現代、春の夕方

場所 田舎町のレストラン「アンビエンテ」の地下従業員休憩室

レストラン「アンビエンテ」の地下従業員の休憩室。

中央に大きなテーブル、その周りにいくつかの椅子が置いてある。

上手はレストランに繋がっていて、下手は倉庫への入り口がある。

机の上には糊や、折り紙が散乱し、

足元には出来た折り紙を入れる小ぶりの段ボール箱がある。

定美が、蝶ネクタイにスカートの制服姿で、

パーティー会場に飾る折り紙の輪っかを作っている。

定美 寿子先輩……真理ちゃん……私……総支配人。……島さん、寿子先輩……真理ちゃん、総支配人……

寿子 (下手倉庫から出て来て) わからないわ。

定美 倉庫の戸棚、その一番上。

寿子 ないのよ。

定美 わかるって言ったの先輩でしょう？

寿子 だってないもの。

定美 あります。

寿子 ないの。

定美 まあまあまあ。

寿子は席について

定美 え？

寿子 見てきなさいよあんた。

定美 んもう。 (見に行く)

寿子は散乱した輪っかを確認。イライラして投げる。

定美 (嬉しい)ありましたよ先輩、新しい糊、ありました！

寿子 ふんっ。(輪っかを投げる)

定美 まあまあ。

寿子 ふんっ。(輪っかを投げる)

定美 ちよつと！

寿子 (輪っかを投げる)

定美 もーなんですか？ 散らかさないでください。

寿子 ……あんたさあ、悔しくないの？

定美 え？

少しの間

寿子 島さんよ。突然呼び出されてわたしたち、こんな田舎町のレストランで「輪っか」作らされてるのよ？

定美 はい。おっと急がなくちゃ。

寿子 五年ぶりの再会で、なんでこんな目にあってるのよ、少しは疑問を持ちなさい。

定美 私はホラ、疑問を持つ様なアレじゃないですから。

寿子 アレって何？

定美 (制して) まあまあまあ。みんなでまかないを食べた、思い出の地下従業員休憩室じゃないですか。

寿子 (輪っかを見て) フンツ、何よこれ。

定美 まあまあ。島さんが全面的に任せてくれたんですから、会場の飾り付けを今日、大切な日に！

寿子 バカみたい。面倒押し付けられて。

定美 ……まさか。認めてくれたんですよ。

寿子 はあ？

定美 家族の一員として。……これは存在意義です。

寿子 輪っかが？

定美 あく、またここで働けないかなあ。

寿子 ちよつと本気？

定美 もちろん。(輪っかを持って) いいですか？ この小さな輪と輪を結んで、大きな輪っかが出来るんです。

寿子 はあ？

定美 つまり小さな輪っかは私達。大きな輪っかは家族、つながり、このレ
ストラン「アンビエント」を表してるんですよ先輩！

寿子 なによそれ。適当なこと言っつて。

定美 はい。今、考えました。(にっこにっこしている)

寿子 つたく、言ってるでしょう、少しは疑問を持ちなさい！

定美 疑問？

寿子 そう。何にでも疑問を持つことが大事なの。

定美 ああ……でも、私には何が疑問点かよくわからないし。

寿子 はあ？

定美 これでも、家で落ち着いて考えたら解るんですけど。あれはおかしか
つたんじゃないかなあとか。

寿子 それじゃ遅いの。

定美 ですよ。……(考えて。長い間)……それじゃ遅いんですよ。

寿子 それも遅い！

定美 じゃあ、先輩の今の疑問点はなんですか？

寿子 だからさ、そもそも何で島さんに認めて貰わなきゃならないのよ。

定美 ……。

寿子 年下のクセに。

定美 でも仕事上では先輩だったし。それにあの頃……一番楽しかったじゃ
ないですか。(懐かしい)

寿子 でも、私達はもうここに務めてないし、あーガツンと言っつてやりたい
わ。

定美 喧嘩しないで下さい。嫌いなんで、悪口とか嫉妬とか。こっわあ……
口に出しただけで武者震いがする。

寿子 それを言うなら身震いでしよう？

定美 (聞いてない)そういうのを目の当たりにするとね、もーワーっとなつち
やうんですよ、ワーツと。

寿子 つたく。その意味がわからないわ。

定美 ……まあまあ、とにかく頑張りましょうよ寿子先輩。これは島さんの為じゃない、徳川総支配人の為の……徳川元総支配人の為の、輪っか作りなんですよ。

寿子 ……フン。

少しの間

寿子 ……何時に着くの？

定美 (嬉しい)連絡があつたらしくて、もうタクシーに乗り込んだって。

寿子 (驚いて)じゃ、一時間もしたら到着する？

定美 はい！ ……ついに帰って来るんですよ、徳川総支配人。

寿子 うん。(ポケットからファンデーションを取り出し化粧を直し)

定美 (驚いて)何やってるんですか。

寿子 エチケット。大人のマナーよ。

定美 (呆れて)こんなところで。終わってからにして下さい。

寿子 (メイクを直しながら)だけどさあ、本当に飾り付けるの？ 衣装だって

……この格好。

定美 いいじゃないですか制服、懐かしい。ここの刺繍も同じ、「アンビエンテ」って。

寿子 ここまでする必要ある？ わざわざ昔の制服に着替えて。

定美 今もこの制服なんですって。

寿子 私達にとっては昔でしょう？ もう別の仕事してるんだし。

定美 別の仕事って言っても、私はただの派遣ですし。でも先輩すごいですよ、ね、生命保険の外交員なんて。

寿子 ライフプランナーって言ってよ。かなり優秀よ？ 月間賞で会社から自転車を貰ったわ。ね、あんたもやってみない、生命保険の外交？ 研修

受けるだけでもお給料出るから。

定美 (困って)だ、大丈夫です。(手造りの花を見て)だけどコレ、喜んでくれるんじゃないですか、徳川総支配人。

寿子 (手造りの花を見て) ああ、好きだったものねえこういう手造りのもの。

定美 下手でも心が籠ってるって。(ほほ笑む)

寿子 でも厳しいところもあつたわ。制服が汚れてたらすぐに着替えなさいって。(ほほ笑む)

定美 几帳面なんですよね。

寿子 几帳面なのよ。

定美 いま言いましたよ私。

寿子 清潔にしてたら必ず褒めてくれたし。

定美 時には厳しく時には優しい。

寿子 優しいのよ、あの人。

定美 それも言いました。丸いお腹がチャームリングで。

寿子 (笑って) 小さな男の子みたい。

定美 笑うと細くなる目。

寿子 清潔感のある無精ひげ。

定美・寿子 (口ぐちに) ああ、徳川総支配人……

二人 はあく(ため息)

寿子 戻って来るのね。

定美 戻って来るんですよ。

思い出にふける2人。

寿子 ……で、島さんは？

定美 ……？

寿子 輪っかは私たちがやってるし、食事の準備は真理ちゃん。……島さんはなにしてるの？

定美 (階上を指して) 笑顔の練習。

寿子 (驚いて) 笑顔の練習？

定美 いつも開店前にやったじゃないですか。無理矢理大笑いするやつ。笑顔で客様を迎えようって。

寿子 あくあれ(うんざり)。あれもさ、もともと島さんの提案でしょ。馬鹿みたい。え？ それを一人でやってる訳？

定美 まあまあ。パーティーを盛り上げたいんですよ。

寿子 ったく、暑苦しいのよ島さんって。

立ち上がる寿子

寿子 パーティーはいいの。みんなの為に、五年も刑務所にいた徳川総支配人が出所したんだから、お祝いしたい気持ちでいっぱい、一点の曇りもないわ。

定美 だったら……

寿子 私が言いたいのはね、どうしてそれを、島さんが仕切ってるかってことなの！

定美 だってここ、今は島さんのレストランだし、島オーナーの。

寿子 だからってでしゃばり過ぎよ。

定美 でも、これも総支配人の希望らしくて。

寿子 (驚いて) 希望って……どうして知ってるの？ はあ？ 会ったの？

定美 え？

寿子 島さん……総支配人と。

定美 イヤ電話で。電話で話したって。

寿子 ふうん。

定美 その他にも、いろいろ力になってあげたみたいで。

寿子 はあ？ ……知らなかった。

定美 私もさつき聞いて。

寿子 ……あの人、なんで隠すのよ？

定美 ……？

寿子 総支配人との電話。

定美 別に隠してたわけじゃないでしょ……。言わなかっただけで。

寿子 一緒よ、言わないのと、隠してたのは一緒なの。

定美 え……違うんじゃないですか？

寿子 でも総支配人とは家族みたいなものだし。あんたもそう言ってたでしょ。

よう。家族間で隠し事はしない、それがアンビエンテのルール！なのに

島さん、ああ、やっぱり恐ろしい女ね。

定美 悪口はパスです。

寿子 フンツ。

定美 「みんな仲良く！」は総支配人の口癖でしょう。……それに、電話く

らいしますよ。身元引受人にも名乗りをあげてたそうですから。

寿子 (驚いて) 島さんが？

定美 はい。(慌てて)でも結局は違う方が。弟さんとか。

寿子 当然よ。まったく怖い女ねえ。

定美 また悪口。パスです。……島さんはもともとそのつもりだったんでし

よう？

寿子 何が？

立ち上がり辺りを整理する定美

定美 五年前、総支配人が逮捕された直後から、身元引受人になるつもりで。

だから「アンビエンテ」も買い取って、制服もお店の名前もそのまま。

寿子 どうして？

定美 帰る場所あった方がいいじゃないですか？ つまり総支配人の社会復帰の為に。

寿子 帰る場所……。

定美 ここです。

寿子 ……。

定美 島さん、相当な覚悟だったんですよ。あの事件のせいで潰れかけたココを立ち直らせて。そのために実家まで売ったそうですから。

寿子 実家を？！

定美 最近になってやっと軌道に乗り始めたって、お店の名前変えてないのも総支配人のためですよ。普通は変えるでしょ？ こんな田舎で、あんなことあって、住人は受け入れてはくれませんか。

寿子 ……。？(気づいて) ねえ、何であんたにそんなこと分かるのよ？

定美 そりゃいろいろ考えたんですよ、考える時間は五年もありましたから。パツとは思いつかない分、家でゆっくり、じっくり考えたんです。

寿子は立ち上がり

寿子 ……ま、良かったわ、身元引受人が島さんじゃなくて。

定美 そうですか？

寿子 本当に総支配人のことを思えば、手を貸したくても我慢しないと。おせっかいは禁物、おせっかいなんて下品よ。

定美 でも総支配人が逮捕されたのは、私達の為でもあるんですよ？

寿子 ……。

島 御苦労さまです、定美さん、寿子さん。

上手から島沙織(30)が入ってくる

定美 (驚いて) 島さん! お疲れ様です!

島 順調ですか? お喋りは進んでる様ですけど。

寿子 ふんっ、おかげさまでね!

島 飾り付けはもういいです、私の話を聞いてください。

定美 わかりました!

寿子 (驚いて) 待ってよ。もういいってどういうこと? あなたの指示で作ってたの。

島 はい。でも飾り付けはひとまず真理ちゃんがやってくれたから、もういいって言ってるんです。

寿子 早く言ってよ、こっちは知らずに作業して、定美だつて。

定美 いいんですよ先輩。

寿子 良くない! だいたい、殺風景なんじゃないの上のレストラン、味もそっけもない。白けりやいいってもんじゃないのよ。

島 (笑って) シンプルをコンセプトに改装したばかりですから。

寿子 フンッ、オーナーの雰囲気がよく表れた店だわ。

島 (笑って) ありがとうございます。

定美、仲良く、仲良くですよ、ねえ皆さあん。

島は机の前まで来て改まる。

島 (パンツと手を叩き)では、今からパーティーの段取りを説明します。いいですか?

定美 はい。

寿子 フンッ。

島 まずは主役の入場、徳川総支配人には一番奥の上座のお席に座って貰います。拍手で出迎えましょう。

定美 驚くだろうなあ、総支配人！

島 ここまでいいですか？

定美 あ！ 真理ちゃんはいいいんですか？ 一緒に聞かなくて。

島 さっき説明しました。今買い出しに行ってもらってますので。

定美 だったらいいです、すみません。

島 (パンツと手を叩き)いいですか？ 次に私達も一言ずつ挨拶をして行き
ます、がんばりましょう。

寿子 ったく。

定美 先輩……。

寿子 (思いついて)ねえ、こういう場合の挨拶って何て言うのかしら？

定美 やっぱり……「お勤め御苦勞さまでした！」？

寿子 ヤクザじゃないんだから。

島 (パンツと手を叩き)いいですか？

寿子 それやめてよ。

島 とにかく笑顔で、盛り上げること。大声で笑って、大笑いのまま乾杯、
そして大笑いのまま歓談。

寿子 馬鹿みたいじゃないの。それより料理は？

島 真理さんがやってくれますから。

定美 真理ちゃん、今は隣の定食屋でコックやってるんですって。

寿子 (驚いて)ええ？ あの真理ちゃんが？

定美 そうですよ、当時まだ19歳。元々才能あったんですよ。おいしかったでしょ？ 真理ちゃんのまかない手料理。

寿子 けどあの時はホールへ回されてたでしょ、「厨房が狭くなる」って。

定美 だって当時は九十キロ越えてましたから。

寿子 ホント痩せたわよねえ。最初、誰かわからなかったわ。

定美 昼は見習いコック、夜は道路工事のバイトやってるんですって。

寿子 苦労してるのねえ。

定美 子供の頃、お母さんが家出して。

寿子 あんた物知りねえ。

定美 まあ。人生色々ありますよねえ。

島 (パンツと手を叩き)その、(近所の立ち話みたいな会話、いい加減にしてもらえます?)

寿子 (ムツとして)

定美 まあまあまあ……

フザーの音

定美 (驚いて)え? もう着いたの? もう着いたんですか徳川総支配人。

どうしよう、どうしようどうしようどうしよう。(右往左往)

島 落ち着いてください、真理さんですよ。買出しから戻って。

定美 なんだ、よかったあ……

島 ちよつと失礼、(上に声を掛ける)ハイハイ、鍵開けるから。

上手に退場する島。

寿子 なに偉そうに。ちよつとあんた、あの女にペコペコしないで。

定美 でも与えられた仕事を、やり切れなかったのは私ですから。

寿子 勝手に決めちゃってさ、何よ「笑顔」って。

定美 わーはっはっは。はい口角上げて。わーはっは……。ほら、開店前の恒例「笑顔の練習」!

寿子 (遮って)バカみたい。

定美 いいじゃないですか、総支配人が喜んでくれるなら。

寿子 今日の主役は総支配人。これじゃあまるで島さんのパーティー。

定美 でも主権は島さんだし。

寿子 そうよ。だけど主権と主役は違うのよ。そういうこと解らせてやらな
いと。

定美 (泣きそう) どうするつもりですか？

寿子 あの偉そうな態度を改めるまで、私は絶対に笑わない。

定美 それ効果ありませんよ。

寿子 私は、人生で最も大事な時に、最も大事な人の前でしか大笑いしない
わ絶対、そう決めたの。

定美 まあ、先輩の勝手ですけど。

寿子 ふんっ。

そこへ、同じ制服を着た園真理(24)が買いだした袋を持って入って来る。

二人に軽く会釈をして、一旦下手倉庫へ退場。

再び出てきて手前の椅子にドンッと座る。

その様子をジッと見ている寿子と定美。

寿子 ……えっど？

定美 真理ちゃんですよ先輩。

寿子 あああそうだったそうだった。変り過ぎよ。(かわいい)ごめんね真理ち
ゃん。

真理 ……。

入って来る島

島 さてと、これで全員揃ったわね。では、いらぬものはすべて片付けて
下さい。

定美 はい。

他 ……。

定美 真理ちゃんお願い。(段ボールを渡す)

糊や折り紙をせっせと片付ける定美。

不貞腐れている寿子。

儼然としている真理。

島は辺りが片付いたのを見計らい

島 (パンツと手を叩き)それでは始めます。よろしくお願いします。

定美 お願いしまーす。

席に着く寿子と定美。

島 間もなく、あと一時間ほどで徳川総支配人がここへ戻って来られます。

「家族」という意味を持つこのレストランに。

寿子 今頃、なんの話よ？

島 黙って聞いてください。……この「アンビエンテ」という名前を付けたのが徳川総支配人でした。

一同 ……

島 ご存知の通り、五年前、総支配人は支払いが溜まったこのお店を守るため、すなわち私達家族を守るために、サイドビジネスを始め、それが原因で詐欺容疑で逮捕されるという不運に見舞われました。事実を知りつつ、止められなかった私達にとっても、本当に辛い出来事でした。

寿子 だから今更なに……？

島 (無視して)しかしそれも並み外れた才能と優しさゆえ、ねえ、みなさん。先人はこんな言葉を残しています、「罪を憎んで人を憎まず」。

一同 ……。

島 全ての責任を負い、ひとり罪を償った総支配人を、私は変わらず尊敬しています。

定美 (拍手)

寿子 やめて。(キッパリ) 当然でしょう。

島 (気を取り直して)今日は記念すべき総支配人の帰還と、「家族」の再会を祝うパーティー。みなさんその一員として、一生懸命盛り上げて下さい。

定美 はい！ 驚きますねえ、総支配人。

島 そして出来ればもう一度、同じ顔触れで、私はアンビエンテを営業して行きたいと思っています。

定美 (驚いて) いいんですか？

島 皆さんが望むなら。総支配人も同じ気持のはずですから。

定美 嬉しい、また一緒に働けるんですよ先輩。良かったねえ真理ちゃん！

私、派遣の契約切られたところで。

島 そうと決まったら、まずは笑顔の練習から始めましょう。私の後にがんば

ばってついてください。(笑う) うわーはっはっは。

寿子 (遮って) 嫌よ。

島 何ですか？

定美 先輩……

寿子 私は笑わないわ。

島 なんですか？

寿子 身勝手なあんと一緒に、笑う事なんて出来ないって言ってるの。

島 なんですか？

真理 あの……皆さんにお話したいことがあるんですけど。

島 自分勝手なのはあなたでしょう！

寿子 どういうこと？

真理 皆さんにお話したいことがあるんです！

真理を見る一同

真理 ……あの、私……私、

間

島 後でいいかしら真理ちゃん。取り込み中だから。

寿子 ええ、今は、大事な話を、

定美 ごめんね真理ちゃん。

真理 (立ち上がり)あの、私……結婚します！

三人 ……？

少しの間

島 あ、あらまあそうなの？ おめでとう。

寿子 良かったわねえ、けどあとでゆっくり聞くから。

島 ええ、すぐに終わるわ。

寿子 はあ？ すぐに終わるってなによ？

島 さ、皆さん笑顔の練習を……

寿子 だから私は笑わないって、

定美 まあまあまあ……

真理 私、徳川総支配人と結婚するんです！！

一同 ……？

すこしの間

寿子 ……なに意味不明なこと言ってるの？ ったく。

島 そういうの今はいいですから。

真理 でも…

島 申し訳ないけど、少し黙っててください。

定美 ちょっと待ってて真理ちゃん、わかるでしょう？ 本当に今取り込み中なの。

真理 聞いてください、本当です。本当なんです！……この結婚はもうずっと前から決まっていたことで。でも言い出せなくて、私も嘘ついてるみたいで気持ち悪かったんです、嘘嫌いだし。総支配人が来るまでに話したくて。

だから…

島 (遮って)ちよつと。

真理 はい。

島 なに？

真理 はい？

島 何なの？

真理 だから、

島 だからなんなの。

真理 だから総支配人と結婚を…

島 そういうのいいって言ってるでしょ。

定美 真理ちゃん、悪趣味だよそういう冗談。

真理 本当なんです！ 本当に本当の話なんです。

一同 ……？

真理 黙っててごめんなさい。でも皆さんには伝えたくて。私たち、お互いの強い意思で、徳川総支配人と私は結婚するんです！

一同 ……

寿子 ……どうということ？

真理 そうということです。

寿子 真剣に言ってるの？

真理 真剣です、当たり前です。

定美 徳川総支配人と…？

真理 はい。私、結婚します！

一同 ……ええ？？

真理 ……。

一同、真理の真剣な表情を見て…

島 どういうことなの真理ちゃん、説明して。

寿子 意味が分からないわ。

島 説明しなさい！

定美 落ち着いて、落ち着きましょうよ皆さん！ きっと、真理ちゃんの勘違いですよ。

島 まあ。

寿子 そうよねえ

真理 違います。

一同 (真理を見る)

真理 勘違いなんかじゃありません。

寿子・島 ……。

定美 とりあえず座りましょう。とにかく座って真理ちゃんの話聞いてみましょう。ね？ 座ってほら、みなさん。

一同、しづしづ座る。

島 (ため息をつきながら)……ほら、時間ないんだから、さっさと話して。

問

真理 実はこちら、あの事件の前から交際してて、捕まっただけに婚約。五年たってもお互いの気持ちは変わりませんでした。

顔を見合わせる三人。

島 ……交際してた？

真理 はい。

寿子 総支配人？

真理 もちろん。

定美 ……(困りながら)だけど真理ちゃん嘘つく子じゃないしねえ……

寿子 (笑って)まあ、いいわ。話を続けなさいよ。どうせ勘違いよ。

島 ですよねえ。

寿子 うん。

定美 先輩と島さん、休戦協定ですか？

寿子 うるさい。(真理に)で？

真理 でって……だから私たちは結婚するってことです。

島 じゃあ、聞かせてもらおうけど。ずっとなの？ 総支配人とは五年前から

ずっと付き合ってたってこと？

真理 ……はい。五年前からお付き合いしていました。

定美 総支配人は刑務所にいたのに。

真理 (うなづく)

島 (気を取り直して)五年前って、あなたまだ19でしょう？

定美 総支配人とは、親子ほども年の差があるのに……

真理 (毅然と)はい、愛に年の差は関係ありませんから。

怯む三人。

定美 なんですか、このまぶしき。若いってこういうこと？

島 (気を取り直して) どうやって連絡を取ってたの？

真理 文通してました。刑務所へ毎月必ず。

島 ……文通？

寿子 毎、月？

真理 はい。総支配人も時々は返事をくれて。

島 ……時々しか返事を？ 婚約者なのに？

真理 そりゃ受刑者って忙しいから。

島 忙しいの？

寿子 受刑者が。

真理 ええ。手紙にそう書いてありましたから。

島・寿子 へえ……

真理 ええ、確かに書いてありました。

一同 ……。

定美 ここまで来ると、ちよつと嘘とは思えないですね。

島・寿子 ……。

定美 先輩？ 島さん？

島・寿子 ……。

真理 嘘じゃない、本当です。私は徳川総支配人と結婚します！ 結婚する

んです！ だから皆さんを許します。

他 ……？

少しの間

真理 皆さんのこと、もう許しますから。この中に、五年前、徳川総支配人のサイドビジネスのことを通報した人がいるけど、私は許しますから。総支配人の出所と結婚を機に許します、私の言いたいことはそれだけです。
……以上。

寿子 (驚いて) 以上って……待ってよ、それはどういうこと？

真理 ……。

島 結婚のこともアレだけど、通報した人がいるってなに？

真理 ……。

寿子 もうわけが分からない。(机をたたき) どういうことよ、どういうことなの！

島 何とか言いなさい、真理ちゃん。

定美 (思わず) みんな仲良く！ ……は、ムリですよねえ……

真理 ……だってそうでしょう？ 私と総支配人の仲に気付いて、引き裂くために警察に言ったんでしょう？ でも許しますから。

寿子 その許すって言うのやめてよ。

真理 聞いたんです。……事件の翌年、務めてる定食屋に偶然あの時の刑事さんが食べに来て、聞いたんです。あの日、女の声で通報があったんだって。

島 知らないわよ。

真理 (遮って) でも私は聞きました。あの日、アンビエンテで仕事をしていた女性はこの四人。誰が通報したんだろうって、私はこの五年間、毎日それだけを考えて……

一同 ……

真理 もう許せなくて。「家族だから許してあげなさい」って総支配人は言ったけど無理、だって家族だから。その人のせいで、総支配人みたいな素晴らしい人が刑務所に入れられて、毎日クサイ飯を食ってる、シヤバの空気にも触れられず……

定美 シャバって、言葉がおかしくなって来てるけど……

真理 (遮って) そうでしょう？ 刑事ドラマやなんかではそう言うじゃないですか。そういうシーンを見るたび辛くて、どうして総支配人がこんな目に遭うのか、今頃、ホシはどうしてるのかって……

寿子 (呆れて) ホシって？ 通報した人のこと？

島 ……

真理 そんな気持ちを誤魔化すために、とにかく仕事に打ち込みました。でも総支配人が今この瞬間も苦しい思いをしてると思うと、ご飯も食べられないし眠れません。だから夜通しの仕事を……

定美 ええ？ それで道路工事を？

真理 毎晩夢に出てくるんです、ポロ布を身に纏い、こんな大きな鉄球に繋がれて、背中を鞭で打たれる総支配人の姿が。

寿子 いつの時代の、どこの刑務所よ？

定美 想像力が豊かすぎる。

真理 でも許します、許すんです、許してあげます！

寿子 ……ちっとも許せてないみたいだけど。

真理 当たり前じゃないですか、この中に犯人がいるのに。

定美 犯人って言うのはどうかな？

寿子 いないわよ、いるわけじゃない。(島を指して)この人なんか実家まで売ってるのよ！

島 ……どうしてそれを？ (もしかして)定美さん？

定美 い、いいえ。

真理 でも、罪滅ぼしの為かも知れないし。

島 ……！

寿子 やめてよ。もう何が何だか。あんたと総支配人のことだって、今初めて聞いたのに。

真理 嘘……知ってたくせに。

寿子 知らないって。

真理 知ってたくせに。

寿子 知らない。

真理 寿子さんが通報したんじゃないですか？

寿子 はあ？

定美 もうやめて下さい。パスです。こういうの限界です。(出て行くようにして)

真理 逃げるんですか？

定美 ……。

寿子 (定実をかばって) ちよ、いい加減にしなさい。

定美 そうです、やめてください。

寿子に隠れる定美。

島 (パンと手を叩いて) 真理さん……つまりあなたは、絶対にこの中の誰かが

犯人だと、(言い直して)通報したと思ってるわけね。

真理 ……。

寿子 総支配人の、サイドビジネスの顧客の可能性もあるし、世の中には大勢オンナがいる。

島 それでもこの中の誰かだと？

真理 誰よりも、動機がありますから。

島 ……動機？

真理 べご自身が、一番良くおわかりのはずでしょう？

少しの間

島 (静かに笑い始める)フフフ……フハハハ……ハハハハ……

寿子 島さん？

定美 ああ、ああああ……(怯える)

島 わかりました、話し合いましょう。

一同 え？

島 (真理に)聞きたいことがあつたら何でも聞いて、あなたの質問に一生懸命答えてあげる。……知りたいんでしょう？ 犯人。

真理 ……？

寿子 ちよつと島さん。

島 いいじゃないですか、若い子がこんなに頑張ってるのに、かわいそうじゃないですか。

寿子 あんたねえ、状況を考えて。今はあんたの方がよっぽどかわいそうなのよ。

島 黙って！

静かに真理に向きなおる島

島 (優しく)真理さんって、当時、ここにどのくらい務めてたんだっけ？

真理 ……三か月です。

島 つまり総支配人と知り合つて五年と三カ月。うち五年は手紙でのやりとりだった。毎月、たった一通。

真理 二通出すこともありました！

島 (笑つて) あらそうごめんね。

真理 それがどうしたんですか？

島 私は総支配人と知り合つてもう十三年になるの、寿子さんは？

寿子 ちようど十年。定美は……

定美 (怯えている)

寿子 今は怯えてるけど、この子だってもう八年。

真理 ……。

島 (真理に向きなおり)知りあつてたつた数ヶ月の小娘が、大きな顔するんじゃないよ！

定美 あああ……！

真理 でも、愛に付き合ひの長さなんて、

島 関係ある！

真理 ……

島 (毅然と)関係あるの。

真理 (がんばる)だからって気持ち、変わりませんから。

間

島 (ウフフフ……と笑いながら近くの椅子に座り)さあ、何でも聞きなさい、何でも答えてあげるから。(寿子達に)あなた達もいいわね。

定美 (さらに怯えている)うう……。

寿子 (うなづく)

間

島 で、まずは何から聞きたいの？

真理 ……あの日のことです、五年前、突然総支配人が連れて行かれたあの日。警察が来る、一時間ほど前からの全員の行動です。……どこで何をやっていったのか。

島 ですって。……寿子さん？

寿子 (驚いて)私？

真理 (寿子に向き直る)

寿子　そ、そんな急に言われても、五年も前でしよう？　忘れたわよ、みんなの話を聞いてるうちに思い出すかもしれないけど……

島　(遮って) 答えて。

真理　……。

寿子　(考えて、渋々話し始める) ええと。確か……あの日は来客が多くて……ランチの時から慌ただしかった。ひっきりなしに客席が埋まって、総支配人に会いに来る人もいて。……たぶんサイドビジネスの顧客。(ため息) 覚えてるのはそれくらいよ。

真理　嘘つき！

寿子　本当よ。レストランの毎日なんて変わらないでしょう？　そんな、五年も前の、ただの一日の出来事なんていちいち覚えてないわよ。

真理　ただの一日なんかじゃない、あの日は特別な一日。総支配人が逮捕され、私達がアンビエンテで過ごした最後の一日なんです。忘れるわけじゃないですか。

寿子　特別になったのは逮捕されてから。それまではごく普通の、ありふれた一日だった。

島　(パンツと手を叩き)

寿子・真理　……？！

島　わかりました。確かに、急に思い出せるものでもありません。話してるうちに思い出したことがあったら、それぞれが答えて行きましょう。

寿子　だからそう言ったのにもう……

島　(遮って) 次。

定美　(のぼせている)

島　……は、無理みたいだし、私ね。

島 あれは五年前……ちょうど今頃、桜が咲き終わった時期だったわ。五月の始めだって言うのに風が冷たくて、アンビエンテの駐車場にも花びらが舞ってた。砂ぼこりにまみれた、薄汚い花びらよ。

寿子 前置きが長い。

島 (咳払い) 寿子さんの言うとおり、ランチタイムから慌ただしくて……といっても、これは後から聞いた話ね。私、あの日は休みだったの。だけど急に呼び出されて、夜のホールを手伝ってほしいって。そういうことは珍しいことだから良く覚えてる。

真理 それで？

島 呼び出されて店に着いたのがディナータイムの少し前、事務所の前を通り過ぎたら話し声が聞こえて、ああ、誰か来てるんだなって思った……それからしばらく経理の仕事を片付けて。ホールを手伝いに入ったのがディナーが始まってすぐ。慣れないホールの仕事に手間取ったわ。それも私にとっては珍しいことだからよく覚えてる。

寿子 だから長い。あんたの感想はいいの。

島 で、ラストオーダーの少し前、突然警察が入って来た、八時半頃ね。それから総支配人が連れて行かれて、私たちも順番に事情を聞かれたわ。で、ここへ戻って来たのはたぶん夜中十二時頃だったと思う。

真理 だからその前は？ その前は何をしてたんです？

島 わかるでしょう？ ……仕事よ。

真理 でも目を盗んで、密かに電話くらい出来たはずですよ。

島 (笑って) ですって、寿子さん。

寿子 また私？ ……だから通報なんかしないって。

真理 でも知ってるんですよ。あの時、寿子さん急にいなくなったじゃないですか、十五分くらい。

寿子 (驚いて) ええ？

島 そういえば……私も覚えてる。ちょうどお給料日で、お給料渡そうと思

つたらいなかったもん。

真理 (寿子に向きなおり) ……どこ行ってたんですか？

寿子 ちょっと、私を？

真理 ……。

島 (笑って) ほーら疑われてますよ、ちゃんと答えてあげないと。

寿子 (困って) もう……あんた達、何でそんなに詳しく覚えてんのよ？

真理 決して忘れないように、紙に書き出しましたから。

島 私はこのパーティーの為に、業務日誌を読み返したから。

真理 (遮って寿子に) で、何してたんですか？

寿子は考えて

寿子 ……(しゅしゅぶ考えて) そうよ思い出した！ 倉庫の掃除してたのよ、総

支配人に頼まれて、あっちの倉庫。

真理 本当に？

寿子 本当よ。倉庫の窓ガラスが割れてて、掃除しておくようになって言われたの。あの日は一日中忙しかったから、昼に頼まれた仕事になったの。

ガラス片きれいに掃除して、ダンボールで窓を塞いで。そう……ハッキリ思いました。

真理 でも電話くらいできますよねえ、携帯あるんだから。ここに置いてあるんだから。

島 (遮って) 無理よ。

島を見る寿子と真理。

島 ……電波届かなかったのよ、ここ地下だし。五年前は無理だったわ。でしよう？

寿子 そうよ、そうそう！ ここからは電話掛けられなかったの！

真理 じゃあ窓から……倉庫の窓から外に出られるじゃないですか。窓から地上に出て、それで電話を……

寿子 やめてよ、そんな執念あったら、まずあんたのこと殴ってるわよ。

真理 え？

寿子 (慌てて) 例えばよ。……殴らないわよ。あんた達の関係は知らなかったし、知ってたとしても、そんな乱暴なことしないって。

真理 じゃ、電話は……？

寿子 あのさ、あんな小さな窓から出て、電話して、掃除して、ダンボールで塞いで。それだけのことをたつた十五分で出来るわけないでしょ。

真理 いいえ、十五分もあれば充分……

寿子 (呆れて) あのねえ……。私は見ての通り大柄なの、あんな小さな窓から外へ出るのは一苦労よ。服だって汚れるし、ガラス片が散乱してる窓よ、怪我するかもしれないでしょう。窓からは無理。

真理 だけど……。

寿子 じゃあやってみなさいよ。

島 そういえば……

寿子 何？

島 あの時、定美さんの姿も見えませんでした。探したんですよ、定美さんにもお給料渡そうと思って。

寿子 さあ？

定美 それはだって……

むっくり起き上がる定美

寿子 あんた参加するの？

定美 あれは総支配人に頼まれて買い物へ。忙しかった分、仕込みの材料が足りなくなつて。

真理 あんな夜更けに？

定美 っって言つても八時ごろでしょう？ ふもとのスーパーは開いてますから。だから走つて行つたんです、走つて走つて、ネギ買つて、必死で戻つてきたんです。

真理 (驚いて) ネギ？ ネギって……仕込みの材料にネギなんてありましたか？ 私これでもコックなんです。本当に買ったのはネギなんですか？ もしもそうだったとしても、なんでそこまで覚えてるんですか？ ……嘘ついてるんじゃないですか？

定美 (慌てて) ネギは例えです！ 何を買つたか忘れたから、「例えばネギ」っていうつもりで。本当はジャガイモだったかもしれないし……

真理 じゃあ嘘を？

定美 嘘じゃなくつて……そりゃあ嘘になるのかもしれないけど。とにかく「例えばネギ」みたいなものを買つて、それで帰つて来たんです。

真理 でも、公衆電話がありますよね。

定美 無理です。お金は渡された分しか持つて行かなかつたし、おつりと領収書と一緒に島さんに渡しました。おつりの金額があつたかどうかは、島さんに聞いて下さい。

島を見る一同

島 おそらく合つていたでしょうね。

寿子 (真理に) 一円でも合わなかつたらこの人大騒ぎするから。知ってるでしょう？

島 仕事ですから。

真理 だけど……そうですね、自分のお金を持って出たのかもしれないし。

定美 それも無理。自分のお金は地下のロッカー、ホールには一円も持ち込まないのが、アンビエンテのルールでしょう？

真理 そんなルール……

島 (遮って) そうですね、アンビエンテにはルールがあった。家族として働くルール……それを破ったのは、真理さんあなたよ。

真理 でもあの時……島さんいませんでしたよねえ。

島 そうだったかしら？

真理 何してたんですか？

島 打ち合わせでもしてたんじゃないの総支配人と。このお店のことを。

長い間

島 さ、これで分かったでしょう？ この中に犯人はいない。

真理 分かりません！ みんな怪しいし……

島 (遮って) そう。みんな怪しいし、みんな通報することが出来た。けどそんな人間ここにはいない。寿子さんは総支配人に言われて掃除をし、定美さんは総支配人の言いつけでネギしょって走ったの。私は言うに及ばずよ。私達の中で総支配人の言いつけは絶対、付き合いの浅い人にはわからないかもしれないけど、私達が彼を裏切るわけがない絶対に。それがこここの掟。

長い間

真理 ……でも、わからないじゃないですか。

島 あなたの気持ち、よく解るわ。この五年間、その思いだけを支えに生きて来たんだもん。間違いを認めることは怖いし、勇気のいること。だけどね、現実ってこんなもんよ。

真理 ……納得できません。

島 どうしても？

真理 どうしてもです。

島 そう。だったら一緒に働くのは無理……そういうことよね。

真理 え？

島、真理から離れる。

島 残念だわ……ホント残念。理解してもらえなかったのに。

真理 ……。

島 あなたさえ良かったら、私はここでメインのコックをやって欲しいって思ってた……身寄りもなく、朝も夜も働いて、人一倍苦労して来たんだもん。……これはホントよ。覚えといてちょうだいね。

真理 ……。

島 で……ついでに言うと、実はあなたに、もう一つ残念なお知らせをしなければいけないの。

一同 ……？

真理 お知らせ？

島 もちろんあなたの為に言うの。私だって、まさかこんな形で言うことになるとは思ってなかった……だってそうでしょう？ これじゃあなた、まるでただのさらし者になっちゃう……でも仕方ない。現実を知っておいて貰わないと……

寿子 だから前置きが長い。

島 (パンツとてを叩いて) 総支配人とは私が結婚する。ご実家へのご挨拶も済ませた。

一同 (驚いて) はあ？

島 黙っててごめんなさい。……これはもう、総支配人がこのお店を始めた時から決まっていたこと。つまり十三年前、私がここにオープンングスタッフとして入った時からの約束。

真理 ……嘘でしょう？

島 確かに従業員の手前、距離を置いて過ごしてきた……公私混同しないって言うのが彼の真情だったから。でもこれが現実。

真理 (驚いて) 信じられません。

島 (ため息) 本当に申し訳ないと思ってる。あの人、優しすぎるっていうか、甘いっていうか……とにかく面倒見がいいから、誤解させてしまったのね。仕方ないわよ、まだ19だったんだから。(改まって) 私からも謝ります、ごめんなさい。(おじぎ)

真理 やめて下さい。

島 これは本心。

真理 待ってください。でも手紙には、

島 (遮って) なんて書いてあったか知らないけど、たった月イチの手紙でしよう？ ……(満を持して) 面会に行ってたの、この五年間、三か月に一度は必ず。

真理 (驚いて) え？

島 刑務所の面会人申請書に……面会するには、そういう申請書を、ひと月前までに提出しないといけないんだけど……彼、書いてくれたの。面会人との間柄の欄に「婚約者」ってハッキリ……そうハッキリと。

真理 ま、まさか(ショック)

島 もう嬉しくて……この十三年、一生懸命ついてきたけど、ハッキリ言わ

れたこと無かったから。そりゃ支払いの出来なくなったこのお店を立て直すのは大変だったし、実家だって売ったわ。十二指腸潰瘍で入院したのもその頃よ。でもがんばって当然。夫婦って分かち合うものだし……

真理 ……(近くの椅子に座る)

島 彼ね、お店の経営に意欲的で、毎日毎日刑務所で新メニューを考えてたの、楽しみだわ。

真理 (呆然と)刑務所……面会って、他人でも出来るんですか？

島 ええ。家族や婚約者はもちろんね。……もっとお勉強しなくちゃ。夜通し道路に穴掘ったところで、あの人の為には何にもならない。でも仕方ない、まだ19だったんだし。

島に向きなおる寿子

寿子 ねえ。それって本当の話なの？

島 え？ ええ、もちろん私と総支配人は婚約……

寿子 じゃなくって、徳川総支配人がこのお店の経営に意欲的だって話よ。

島 (笑って)それはもう……！ 新装オープンの記念に、ポイントカードも作ろうって、ホール改装したのも総支配人の指示で……

寿子 知らなかった。

島 そりゃあさうでしょう。寿子さんはその間、なんにも知らずに保険の契約増やしてただけだから。

間。

寿子 ……面会に通ってたの私も。

一同 (驚いて) ええ!？

寿子 月に一度は必ず、電話でも話した。

真理 どうして？

寿子 総支配人から任されてたの。サイドビジネスの方の顧客管理を。昔からずっと。

真理 ……！

島 (驚いて) 待ってください。あれはやめるって。サイドビジネスはもうやめるって言ったでしょう？ この村の人だって商品買わされて迷惑したのに。

寿子 (遮って) 私だって。……だけど電話がかかって来たの刑務所から。顧客管理を続けて欲しいって。出所したらまた始めるからって。

島 断りなさいよ。

寿子 そう思っただけ。

島 断って関係が切れるのが怖かったのね。

寿子 まあ、声を聞いたらつい……

島 いつ頃から？

寿子 入って半年たった頃。

島 …… (驚いて) 私が十二指腸潰瘍で入院してた頃じゃない。

寿子 (困って) だって、こんな田舎町のレストランじゃ先が見えてるでしょう？ ああ、これはもちろん、総支配人の言葉ね。

島 ……。

定美 (驚いて) じゃあ先輩……あの浄水器、まだ売ってたんですか？

寿子 まあ。私も本当はやりたくなかったけど、あの人の希望だし。(言いわけ) けどね、商品の値段も下げたし、本当に健康になったって言う人もいるし。

定美 そんな……。

寿子 保険を見直したいっていう主婦層を中心に、抱き合わせでお勧めしたの。そういう主婦は、健康に対するアンテナも高いからお勧めしやすかったわ、水は命の源でしょう。

島 (遮って) だけど私には……!

寿子 (遮って) 何て言われたか知らないけどこれが現実。

島 (焦って) 「間柄」は? 面会の申請書の「間柄」の欄にはなんて書かれたの?

寿子 フンツ、どうでもいい。

島 どういうこと?

寿子 私は必要とされてる、それで十分よ。……だつてさ、東京へ行くのよ一緒に、部屋だって借りたわ。そばで見守ってあげるつもりよ。

島 ……。

寿子 私はね、全て彼の指示通りに動いてきたの。あなたみたいに、私財売り払うようなおせっかいはしない。おせっかいつて下品でしょう?

島 ……ウソ言わないで。

寿子 あんたでしょうが。

真理 嘘です! みんな嘘です! デタラメです!

寿子・島 (一緒に)うるさい!

問

定美 (笑いの練習をして) わー…わーはは(咳払い)さてと、大笑いの練習しましょうか島さん。

一同 ……?

定美 (立ち上がり) さ、早くしないとタクシーついちやいますよ? ホラみんなな立って。

一同 ……。

定美 我慢できないんです、こういう雰囲気。いいじゃないですか、みんな無かったことにして、みんな忘れて、みーんなで総支配人を迎えましょうよ。で、働きましょうよここで、わーははははって。私たち家族なんですよ。

島 (遮って) 家族じゃない。……家族じゃないの、今も昔も。
定美 ……。

間

島 (パンっと手を叩き)

寿子 いちいちうっとおしいわねえ。

島 申し訳ないけど、皆さん出て行って貰えます？ ほら、帰ってください。

寿子 呼ばれたのよあんに。

島 ついでに言っておきますけど、さっき申し上げた同じメンバーで営業する話も無かったことにして下さい。

寿子 そんなことは分かってる。

島 ほら、帰ってください。

寿子 指図される覚えはない。

真理 そうです、出て行きませんっ。直接、会って話してみないとわからないわねえ。いし、だって……だってだって五年ぶりに会えるのに……

寿子 あんたもうっとおしいわねえ。

島 帰って下さい。

寿子 イヤよ。

真理 イヤです。

寿子 一人で出迎えようだったってそうはいかないから。

真理 ここにいます。

島 出てってって言ってるでしょう？

真理 イヤです。

寿子 出て行かない。

島 出てけ！

寿子 うるさいチビ！

島 なによこのデカ女、(真理に) あんたも。

真理 出て行きません！

定美 (遮って) やめて下さい。もう限界です。お腹いっぱいです。……言ってるじゃないですか。喧嘩も悪口も、もうたくさん。私、我慢できないんです。

一同 ……。

定美 何で仲良く出来ないんですか？ 五年ぶりに会ってこんな……恥ずかしいとは思わないんですか？

寿子 思わないわよ。状況が状況なのよ。仲良くなんでできるわけないですよ。

定美 それでも、それでも落ち着いて話すことくらいはできるでしょ。なんですか、もう……。

顔を見合わせる一同

定美 ……同じじゃないですか、これじゃ。……同じじゃないですか。

少しの間

真理 同じって？

一同 ……

定美 あの時だって……毎日毎日、先輩と島さんは喧嘩ばかりして、シエフは真理ちゃんに当たるし。

一同 ……。

定美 それを何とかしてくれるはずの総支配人は……怯えてるし。

真理 怯えてる？

定美 来店するお客さんは、借金の催促に来た人ばかりだったでしょう？
食事してもお金払わずに帰って……村の人たちは買わされた浄水器の文句
ばかり。あの窓ガラスだって、割れたんじゃないかって割られたんですよ。

真理 ……そうだったんですか……？

定美 そりゃあ真理ちゃんは、総支配人にのぼせてたから。……ちなみに、
私、あんた達のこと知ってたよ。

真理 え？

寿子 あんた知ってたの？

定美 見てたら分かりますよ。先輩と島さんは喧嘩ばかりだから、気づかな
かったんです。

寿子・島 ……。

定美 あのね、それに、私、先輩たちのことも分かってたんです。それぞれ
に、一緒に逃げようって総支配人に持ちかけたでしょう？ みんな隠し事
だらけ。「アンビエントのルール」も何も、あったもんじゃないよ。
寿子 あんた陰でそんなことしてたの？

島 そっちこそ。

定美 だけど先輩達はいいんです、付き合いが長いし、協力もしてるし、仕
方ないじゃないですか。

一同 ……？

定美 先輩たちはいいんです。

定美は真理を見て、

定美 でも……我慢できないんです真理ちゃんは。島さん達は付き合い長い
し仕方ないけど、新しい子はイヤ絶対。……私、我慢できないんです。

真理 それって、どういう……？

定美 (真理に向きなあって)大変だったんだからあの時……総支配人も、シェフも島さんも先輩も、みんな大変だったんだから……氣イ使って真理ちゃんにはわからない様にしてたけど、大変だったんだから。

真理 ……

定美 そういうことに気付きもしないで。みんなに護られてることに気付きもしないで……何にも知らないでいい気になって。

真理 別に、そんなつもりじゃ。

定美 (真理に)あんたさあ、どう思ってたか知らないけど、あんたなんか、ただ目新しかったただだからね、総支配人のただの気の迷いだから。追い詰められて、ワーっとなつて、あんたに逃げただけなんだからね。

真理 ……

寿子 あんた、喧嘩は嫌ってたのに。

定美 ホント我慢できなかった、何であんたが……。私、これでも昔は結構もてたし、勉強もスポーツも出来る方だったの。なのに何でドジで太った子が相手にされて、私じゃダメなのって。なんで？ 私の話は誰も聞いてくれないし。相手にもされない。あのさ、人生のピークは小学校だったと思う気持ちがあんたにわかる？

寿子 知らないわよ。

定美 必死で考えたの必死で……私にも出来ること。借金取りにも、村の人にも、島さん達にも追い詰められた総支配人を、私も助けてあげたい一心で。だから、だから、ちようどあの日、思い切って聞いたんです、「総支配人！ 私にも何か出来ることはありませんか」って。

一同 ……。

定美 そしたら言われたんです「ネギ買って来い」って。

一同 ……？

問

定美 (真理に)本当にね、買いに行っただのはネギだったの。

寿子 あの日の話に戻ってるじゃないの。

定美 戻っちゃいました。

真理 ネギ?……仕込みにも使わないの?

定美 つまりね、私に出来ることは何も無いってこと。じゃハッキリ言えばいいのに……仕込みにも使わないネギをわざわざ、今すぐ買って来いって、こーんなによ? で、うっとおしいって言われて、ハエでも追い払うみたい。私、必死で聞いたのに。関わることすら出来ない。我慢できなくて。気がついたら電話を……

島 電話?

定美 違うんです! ネギ買った帰りに、あんまり腹が立つから、冗談のつもりでボタン押したら繋がっちゃって……。公衆電話の110番って、お金要らないんですよね、ご存知でした?

島 それってどういう……?

寿子 ……あなたが通報したってこと?

定美 (笑って)私って、人の喧嘩とか嫉妬とか我慢できないんですけど、自分の嫉妬心には、もつと我慢できなくて。もうワーっとなつて、息が苦しくなつて……。自分が見えなくなるといふか、本能に身を委ねてしまうといふか……。気づいたら全部……

長い間。

定美 (笑って)ちよつとしゃべり過ぎですよ、私……(深呼吸して)でもスツキリした。ずっと気持ち悪くて、隠してるみたいで。

一同 ……。

間。誰も動かない。

定美 まあまあ……ね、先輩？

寿子 ……

長い間

定美 あれ？ あれれ？

一同 ……。

定美 もしかして……私、帰った方がいいですか？

島 そうしてください。

定美 (笑って) ……ですよねえ。

おずおずと立ち上がり、帰る準備を始める定美

定美 あつと制服……。

島 (遮って) 捨てて下さい、あなたに触れたものなんて、置いておけませ
んから。

定美 ですよねえ……。

定美は行くこうとする。

寿子 よく……来れたものね。

定美 呼ばれたし。総支配人にも謝りたくて……謝ったんですよこれでも。

家へ帰って、一人で考えて、無かったことにしようとして、でも出来なくて。思い切って手紙を書いたんです、本当のことを話して。そしたら許し

てくれるって返事が……どのみち自首するつもりだったからいいよって。

寿子 自首？

定美 ホント優しい人です。あ、これは弁解じゃなくて、総支配人の優しさを強調するつもりで……

真理 聞きたくありません。

寿子 ……総支配人、自首するつもりだったの？

定美 はい、書いてありました。

寿子 どうして？ なんで自首するのよ？

一同 ……？

定美 そりゃあ追い詰められて、もう逃げられないと思って観念したんじゃないですか。

寿子 え？ え？ じゃあ私たちを置いて、自分だけ刑務所へ逃げるつもりだったの？

島 逃げるんじゃないわよ。言ったでしょう？ きれいに罪を償って、アンビエンテに戻るつもりで……

寿子 (遮って) でも私には、サイドビジネスを続けるって。

真理 私には結婚式を、海に見える教会で、結婚式をって。なにがホントなんでしょうか？

寿子 待ってよ……どうということ？

顔を見合す3人。

定美 あの……これも弁解とかじゃなくて……

島 まだいたんですか？

定美 前科があるそうですよ、総支配人？

一同 (驚いて) ええ？

定美　今までもこういうことがあって……捕まって出てきて、事業始めて失敗、その繰り返し。

島　はあ？　嘘言わないで。

定美　本当です！　これ以上、皆さんに嫌われるようなこと言うわけないじゃないですか。

寿子　なんであんたがそんなこと知ってるのよ？

定美　調べたんですいろいろ。私だって責任を感じて……私のせいで五年も刑務所に……。だけど考えたんです、ちよつと長すぎるんじゃないかって、詐欺罪で、執行猶予もつかず実刑、おかしいと思って聞いたんです、そしてたら前科と余罪が……

寿子　（驚いて）　なんで黙ってたのよ。

定美　皆さんとはもう会わないと思ってたし。ていうか何で気付かないんですか？　自分のことばかりじゃないですか。

一同　……

問

寿子　じゃあ私たち……ずっと、利用されてたってこと？

真理　……前科？　ええ？　どういう？

島　だからアンビエンテに戻って。

寿子　サイドビジネス……。

定美　嘘じゃないもん。調べてください。ホントのことなんですから！
一同　……。

問。

島　そういう人だった……確かに。

寿子 ……悔しいけど……しつくり来るわね……そう考えると。

真理 ……（落ち込んで）信じられない、嘘嫌いだって言ってたのに……嘘はダメって言ってたのに。

寿子 （ため息）真理ちゃん、悪いけど、今はあなたを慰められる余裕ない。

長い長い間。

真理 本当に……本当に好きだったんです。行く所なくて、家に帰れなくて

……駅にいたら声を掛けてくれたんです。で、ご飯食べさせてもらって、ウチで働いてもいいよって。

寿子 私もそうだったわ……子供置いて家出して……途方に暮れてた時拾ってくれたのが総支配人よ（ため息）

定美 先輩、子供いたんですか？

寿子 うん……ホント辛くて。

定美 ……。

真理 父に殴られてること話したら、許せないって、今すぐ僕が殴りに行くって……そんな大人の人は初めてでした。

定美 そういう魅力ある。……だからどんな過去があろうとも総支配人は総支配人だって思えるの。私を許してくれた人だし。

真理 総支配人といるとね、なぜか自分が凄くカッコいい大人の女の人になれた気がして、何でもわかる、何でも出来る女の人になれたような気がして、自信が持ってたんです。父にも言い返せるようになったし、道路工事だつて……作業着だけど、どんなブランド物より誇らしく思えた。総支配人がいたから。何やつても怖くないって……そんな風に思えた人初めて。優しく……

島 優しい人よ、絶対……

真理 はい。

島 そうよ……(ブツブツ言う)優しくて、頼りがいがあるって、正直で、几帳面、歌もうまいし、髭だつていい感じ……

定美 必死で自分に言い聞かせてるみたいですけど島さん……

寿子 うん。

定美 (しみじみ)人間って裏で何やってるか、わからないものですね。

寿子 あんたが言うな。

間。

寿子は島に向きなおり

寿子 (島に)どうする？

島 (呆然)え？

寿子 あんたオーナーでしょう？ 決めてよ、どうすんのよ。ここはあなたの店でしょう。

島 どこ？

寿子 ここ！ もうすぐ総支配人が来るのここへ。どうするつもり？

島 ……誰が？

寿子 総支配人！

島 ……なんで？

寿子 しっかりして！

定美 総支配人という考えの軸を失くして、フニヤフニヤになっちゃいましたね、島さん。

島・真理 (途方に暮れている)

そんな二人を見て寿子は堪りかね

寿子 (パンツと手を叩き)話し合いましたよ。

一同（島以外）……………？

寿子 みんなで総支配人に問い詰めるの。で、どうするつもりかって聞く。だってそうでしょう、（島たちを指して）女をこんなにして、許せない！

定美 でも……

寿子 とんでもない男でしょ！

定美 だけど私は……

寿子 確かにあんたは裏切り者よ、黙ってた事は許せないわ。だけど本当の悪者はおうち、犯罪者なんだから。

定美 じゃあ、許してくれるんですか？

寿子 許すも何も、あんたは本能に身を委ねただけでしょう？ つまり本心では疑問を持ってたの、総支配人はおかしい。でも信頼ゆえに目をそらし続けた。その矛盾が行動に表れたの……あんた鈍くなんか無い、たぶん、この中で一番鋭い感性の持ち主よ。

定美 先輩！

寿子 あの男のせいで、みんなおかしくなっただけ。定美は裏切り者じゃない。優しいし、ムードメーカーだし。

定美 はい。

真理 そうですよ。それに引き換え私なんか、いつもの外れだし、なんの実力もないし……。

寿子 なに言ってるの？ 真理ちゃん。厨房に支度してある料理見ただけで凄じやないの。シェフなんか目じゃないって。

真理 そんな……。

寿子 なんにでも真つすぐで、一生懸命。眠らずに、ご飯も食わず、朝も夜も働いて。

真理 でもそれも、何もかも無駄な事だったんです。

寿子 そんなことない！（フアンダーションを出して）……鏡見てみなさいよ。

真理 やめて下さい！ 私なんかデブだしの外れだし……

寿子 ちゃんと見なさい、きれいになって……最初誰だか分からなかった。

定美 (手を挙げて) 私も、私も分からなかった。

真理 ……？

寿子 思い返してみても、コックの仕事も、お父さんとの和解も、みんなあな

たのがんばりでしょう？ あなたの努力が的を得てた証拠よ。

真理 ……これが私か……ちゃんと鏡見る余裕もなくて。

寿子 結婚なんて早すぎるわ。もっと自由に、好きにすればいいんだから。

真理 はい……！ お、お母さん。

寿子 え？

真理 ヤダ私ったら……お母さんがいたら、こんな感じかなって。

寿子 (母のように) そうよ、お母さんよ。

定美 ……真理ちゃん、さつきはごめんね。

真理 いいえ、私が鈍くて。

定美 ちよつとヤキモチ焼いちゃって、実は高校のテニス部に、真理ちゃん

とそっくりな子がいたけど苦手で……

真理 (驚いて) 私も！ 私もテニス部なんです！

定美 そうなの？

真理 はい。

定美 じゃあ今度やろうよ！

真理 やりましょう！

寿子 (島の様子に気付いて) どうしたのよ島さん。

島 ……いや、私は……私にはなにかあるかなあと……。

寿子 あんたの五年間は誤魔化しようがない、でしょう？

島 ……？

寿子 驚いたわ。まるで別のお店じゃない、隅々まで行きとどいて……オー

ナーの手柄が表れる。

島　こんなお店……

寿子　それに村の人たち。挨拶してくれたのよ私に。

島　ここはいい人たちがばかりですから。

寿子　あなたが頑張ったお陰でしょう？　あんなことがあって受け入れられるなんてあり得ない。昔は石投げられたのに……

一同　（うなづき合う）

島　ダメです、私なんか……

寿子　んもう……前から思ってたけど、あなたってちよつと謙虚すぎる、いいのよ、もっと凶々しくて。

島　……（鼻で笑って）凶々しい……凶々しすぎるくらいですよ私なんか。

寿子　……？

島　実家売ったんですよ。借金返すために内緒で。親から連絡があっても無視、訪ねて来ても逃げ回って。……もう70ですよ両親。今さら何言えばいいんですか。

一同　……

島　十二指腸潰瘍で入院した時ね、連絡する人いなかったんです。……一人で手術受けて、惨めだった。

真理　でもさつきは……

島　ウソ。涙が止まらなくて。

定美　言ってくださいよ。

島　何て言うんですか、定美さんのことずっとバカにしてきたのに。

定美　はい？！

島　今さら悪かった、助けてくれて言うんですか。

定美　気付きませんでした。

寿子　……謝ればいいじゃないの、定美にもご両親にも。……後悔してるんですか？

島　……。

間

真理 厨房にあった連絡ノート見ました。島さん信頼されてるんですね。

定美 本当に前より全然いいお店です。感性の鋭い私が言うんだから間違いありません！

島 ……許して、くれるんですか？ 今までのこと全部。

定美 お世話になったの私だし。バカにしてたって言われても何のことだか。

寿子 どうやったって過去は変えられないわ。大事なのは、これからどうしたいかってこと。

島 でも私…もう何にも無いんですよ。

寿子 それがどうしたのよ。過去なんかいららない、先のことは分からない。でも生きて行きましょうよ私たち。這ってでも生きるしかないんだから。

それしかないんだから。

一同 (口ぐちに)寿子さん…、先輩…。

寿子を見つめる一同

寿子 (フッと笑って)これ、保険に勧誘する時の決め台詞なの。

一同口々に「ヤダー」、「乗せられちゃった」などと笑う

定美 ね？ 島さん。(手を出す)

島 ありがとう。(定美の手を取り立ち上がって)今までごめんね、定美さん。

定美 こちらこそ。

真理 (拍手)

3人から距離を取る寿子

寿子 (ため息) それに比べて私なんか……

真理 どうしたんです? 寿子さん。

寿子 (落ち込んで)私、今猛烈に後悔してるの。何だったのよ私の五年間……
毎月刑務所へ通って、詐欺の片棒をかついで……言いなりだったわ。保険
入った上に、浄水器まで買わされたお客様に何て言えばいい? どうやっ
て償えばいいのよ……(もっと落ち込む)

定美 先輩……

真理 寿子さん。

島 わかるわ。総支配人の言葉って、なんか訳の分からない説得力があるの
よね。

一同 (うんうんと頷く)

しばらく動かない寿子。

定美 先輩?

寿子 ……仲直りしてさ、拍手してる場合じゃないわよね。

島 え?

寿子 自分たちのことばかり。被害者がいるのに。あの人をかばって、言い
なりになって。詐欺の片棒を担いだのよ。

真理 でも、それはあの人の……

寿子 そうよ。そうやって、あの人のせいにして、あの人への文句を隠れ蓑
に、一緒に被害者面してるだけじゃないの。

島 それはそうだけど……。

寿子 ああああああ、突然、今、突然襲ってきた。なにが「這ってでも生
きていく」よ。「過去なんかいらない」よ。私たちは過ちをおかした、あの

人と同じなのに。

定美 じゃあ、どうするんです？

寿子は突然立ち上がり、おもむろにダンボール箱のはさみを持ち出す。

寿子 ……あいつ殺して、私も死ぬ。

一同 (驚いて) ええ！

突然上手へ向かう寿子、皆は必死で止める。

定美 待って下さい、先輩待って。

真理 寿子さん落ち着いて。

寿子 罪を償うには、もうそれしかないの。

島 とにかくそのハサミ渡して。

寿子 離して！ それしかないのよ、もう離して。

定美 先輩、早まっちゃダメです！

寿子 だってそうでしょ？ もうダメよ、私たちは。

いきなり輪っかのダンボールをひっくり返す真理。

一同 ……？

寿子 なに？

問。

寿子 ……なによ？

真理 そう思います。

一同 ……。

真理 私も同感です。寿子さんと同じ気持ちです。

寿子 はあ？

真理 でも、死んだってなんの解決もならない。悪いと思うなら、償いましょうよ。

島 償う？

真理 考えましょう、罪を償える方法を。

定美 方法って……そりゃ、謝ってお金を返すしかないんじゃないの。

真理 でしょ？ そうなんです。お金を返すしかないんです。

島 だけど全部合わせたらいくらになると思ってるのよ？

定美 私、ただの派遣社員なのに……。

真理 だから……東京へ行きませんか、みんなで！

一同 ？

定美 東京？

真理 (寿子に)部屋、借りてあるんでしよう？

寿子 ええ……。

真理 こんな小さな箱の中飛び出して、東京でお金を稼ぐんです。なんとかありますって四人もいるんだから。

寿子 ……無理よ私なんか、若くもないし。

真理 でも死ぬ覚悟があればなんとかありますって。

寿子 ……。

真理 島さん。島さんならどこでも通用します。東京でレストラン開けばいいじゃないですか、島さんがオーナー、調理は私が、定美さんがホールをやって、……寿子さんが保険を勧めるんです。

寿子 私だけは保険なんだ。

真理 いいですよ、別に一緒にお店で働いても。

島 だけど、東京でお店やるのにどれだけお金がいる？ その時点で無理よ。

真理 もう、皆さん、東京ですよ。何とかなりますって東京へ行けば。東京
だったらここなんかよりなんでもかなうんです。眠らない街東京。日本の
首都ですよ、まだまだ世界の中心地、東京。いや、トーキョーです、(英語
風に) トーキョウですよ。

定美 現実の東京から離れていつてる気がするけど。

真理 ……。

寿子 ……いや、いいんじゃない。

一同 は？

寿子 真理ちゃんの言う通りよ。

定美 先輩？

真理 寿子さん？

寿子 東京に行けばなんとかなるとは思わないけど、私たち、それくらいす
るしかない。……大事なのはこれからどうしたいか、どうするかよ。島さ
ん、どう？

一同、島を見る。

島 ……そうですよね。私も変わりたい。ここを離れて、ちゃんと両親にも
謝りたいし。

定美 ……。

島は寿子に向きなおり

島 だけど……寿子さん、すっかり変わったのはあなたよね。さっきの言葉
……あれはあなた自身の言葉よ。

真理 「大事なのはこれからどうしたいか」……いい言葉ですよね。

寿子 あ、でも書いてあるのよ本当に、「保険勧誘の手引き」……

島 でも、本当に思ってた言葉でしょうか？ ハッキリと意思、持ってるじゃないですか。浄水器の販売だって不本意だったんでしょ？

寿子 もちろん！ ずっと違和感あつて。でも言いだせなくて。

島 わかります。

寿子 ……。

島 今はちゃんとノーって言ってるじゃないですか。

定美 うわあ、島さんが先輩を褒めてる。

寿子 ……ありがとう島さん。

定美 先輩は元々すごいんですって。(みんなに)先輩、保険の営業でも表彰されたんですよ！

一同 (感心する) へえー。

寿子 社内でも優秀者だけの月間賞だから。

島 才能あるのねえ、寿子さん。

真理 尊敬します！

寿子 才能？ 私なんか。(うれしい)

島 ……私、寿子さんのこと、誤解してたみたい。

寿子 (立ち上がり)私だって酷いことばかり。

島 いろいろとごめんなさい。

寿子 謝るのは私だから。

定美 まあまあまあ。

真理 ほら、だから……東京へ行きましょう、みんなで！

島 そうね。(パンっと手を叩き)さ、これからのことを話し合しましょう。

寿子 ……話しあう？

島 そう。私たちの気持ちを強くして、総支配人にも私たちの意思を伝えな
いと。

真理 ……「もう会わない」って。

島 ええ。そしてみんなで新しいスタートを切る、ほら座って。

定美 はい！

真理 そうです、私たちには未来があるんだから。(座る)

寿子 言ってやりましょう、ビシッと。(座る)

定美 いいでしょう！

改まって顔を見合わせる一同。

真理 うまく行きますよね、この4人なら。

島 まず、お店を成功させて、被害者に謝ってお金を返して。

寿子 そうよ。でも大事なのはそれからよ。そこから私たちの新しい人生が始まるんだから。

島 そう！

真理 できますよ。やりたいことなんでも。

寿子 一緒なら。

微笑み合う。

定美 だけど、先輩、大変です！

寿子 なによ？

定美 私……その先の夢がありません！

寿子 (呆れて) はあ？

定美 与えられた仕事を真面目にこなすことに流されて……やりたいことがなくなっていることに気付きました。

島 (ハツとして) 私にも夢がない！ 総支配人以外のこと、この13年考えたことなかったから！

真理 (嬉しそうに) やりたいこと……ええ？ これから私のやりたいことかあ。

寿子 あんたたち夢がないの？

定美 なんだろう？ ああ真面目って……希望を見失うことだったんですね。

島 あ！（宣言）私はもうがんばりません！ がんばりません！

寿子 （戸惑って）いったい何の宣言？

島 え？ 性格を変えるんです。

寿子 違う、夢よ夢。

島 ……んんん。

定美 じゃあ、先輩の夢って何ですか？ まずはそれを教えてくださいよ。

寿子 私は……

一同 ……？

寿子を見る一同

寿子 もしも願いが叶うなら……家族に会いたい。

一同 ああ……。

寿子 もう2度と捨てたりしないわ。今はそれが私の夢ね。

定美 会えますよきつと。

真理 だったら私も。

島 え？

真理 私の夢は……あの時、玄関を出て行くお母さんに、行かないで言うこと。……ここにいてって言う。

寿子 真理ちゃん……。

真理 （自嘲気味に）だけど、もうその夢を叶えられないから。だから、私
はもうこれ以上、何一つ失いたくないんです。

寿子 大丈夫よ。

島 ええ。

定美 （真理の手を取り）大丈夫だよ真理ちゃん、私達が家族じゃない。

真理 (困って) あ……はあ。

寿子 (定美に) ちょっと。急に空々しいこと言うから困ってるじゃない。

定美 私も……勢いで言ってみたら気持ちがついて行かなくて、驚きました。

寿子 かわいそうじゃない。

定美 ごめんね真理ちゃん。

真理 (ぎこちなく) だ、大丈夫です。家族です、はい。

定美 (親身に) 無理しなくていいよ。

寿子 あんたが言わせたの。

島 家族じゃない、家族じゃないわ。

一同 ?

寿子 いきなり、そんな全面否定しなくても。

島 いや、いいじゃないのこのまま、友達のままです。そんなに差がある?…

…友情と家族愛って。

一同 (微笑む)

寿子 …… (笑って) 暑苦しいわねえ。

島 どうも。

定美 ……じゃあお友達で。

島 友達のまま。

真理 よろしくお願いします。

定美 これからずっと一緒にいるんですよ。東京で一緒に住みますよ。

一同 おおおおお。

島 東京へ行ったら、きっと夢も見つかりますよね。

定美 (立ち上がって歌いながら) 東京へ、ほれ、東京へ。

島 なにふざけてるの? こっちが真面目に喋ってるのに。

定美 未来に夢を馳せてるんじゃないですか。東京へ、ほれ、東京へ。

真理 (立ち上がって一緒に) 東京へ、東京へ。

島 真理ちゃんまで?

寿子 (参加する)

島 え？

寿子 ほら！

そして全員が揃って、

一同 (口々に) 東京へ……東京へ！

「東京へ！」と言いながら輪っかを首に掛ける真理。

盛り上がる一同。

突然のブザー音が皆の動きを止める。

ハッとする一同

真理 ……ここ、これ総支配人ですよ？

定美 うん。

真理 え？ 到着しましたよ総支配人。

島 分かってるわよ。

真理 びしっと言うんですよね、寿子さん？

寿子 そうね……そうよ。

ブザーの音

真理 島さん？

島 分かってる。ドアを、開けてこないとね。

一同 ……。

真理　なんか怖いです…みなさん、大丈夫ですよね？　自信あるんですよ？

寿子　当たり前でしょ？

真理　じゃあ、いいですけど……。私、はっきり言って怖いです。総支配人の言葉には変な説得力がありますから。

定美　それは、分かる。

寿子　うん……。

島　まあ、これまでずっと支配されてきた訳だしねえ。

定美　そういう意味でも、総支配人ですね。

寿子　冗談言ってる場合じゃないでしょ。

真理　は？　じゃあみなさんも怖いんですか？　だったら、だったら会っちゃダメですよ、顔を見たら、私たち、また言いなりになってしまう……。私、自信ありません。ねえ寿子さん！

寿子　ええ？

フザーの音

真理　ダメ！　このまま逃げましょう！

他　え？

真理　東京へ！　すぐに東京へ……！

他　……。

真理　(思いついて)あの窓から！　あっちの倉庫の窓から外へ出ましょう、ねえ、寿子さん。

真理は寿子を引っ張るが、寿子は動かない。

真理　……どうしたんですか？

寿子 無理よ……そう無理だわ。私、大柄だし、あんな小さな窓から外へは出られない。

真理 え？

島 私も。私にも無理よ……。

真理 いやいや、出られますっつて！

寿子 それに……そう、ひとこと言っつてやらないと、ビシツと。

島 え、ええ、このままじゃ気が済まない。

真理 だけど今、自信がないっつて……。

島 というかき、あの人と……話せば分かり合えるかもしれないし。

真理 はあ？

寿子 うん。分かるかもしれない。

真理 何言っつてるんですか？

定美 私も。……それに、ちゃんと謝りたいし。

真理 定美さん？

定美 それに、お礼も言わなくちゃ、私を許してくれたんだもん。

寿子 そうね。

真理 はあ？……はああああ？ 三人とも、何言っつてるんですか？ 今、確

認したばかりじゃないですか！

寿子 (と言いつつファンデーションを取り出し) 大げさねえ、ただ話すだけでしょう？ ほんの少し話すだけ。

島 ええ、少しだけよ。

真理 (全員に) 待ってください。東京へ行くんじゃないんですか！

島 だって、久しぶりなんだもん。顔くらいみたいじゃない。

真理 ……。

島 (嬉しそうに) はいはい。

真理 ダメですよ！

定美 (輪っかを集めて) 好きでしたものね総支配人、こういう手作りの物。

島 そうね。

寿子 ええ、心が籠もってるって。

散乱した輪っかを片付ける三人。

その様子を呆然と見ている真理。

真理 ……。

定美 これ、あとは集めて持って行きます。行ってください。

島 ありがとう、やさしいのねえ定美さん。

寿子 ホント定美はいい人ねえ。

定美 まあまあ。

島 行きましょう寿子さん。

寿子 ええ、あの人が待ってる。

真理 お願いです。行っちゃダメですって島さん！ 寿子さん！ ……

島さん！ 寿子さん！ 寿子さん！！

ブザーの音

島は先に出て行く。

寿子 (行こうとする)

真理 行かないで！

寿子 (振り向く)

真理 ……行かないですよ。なんだったの？ 私たちが話したことはなんだっ

たの？

寿子 ……？

一瞬立ち止まるが、出て行く寿子。

呆然とする真理はそのまま崩れる。

折り紙を集め終わりテーブルに着く定美。

定美 (輪っかを作っている)

真理は静かにため息をつく。

真理 (定美に気付いて) ……何、してるんですか？

定美 それ(箱の中の輪っか)ぐちゃぐちゃになったでしょう？ きっと足りない。

真理 どうして……？

少しの間

定美 私はここがいい、東京なんか行かない。だってあの頃、一番楽しかったし。

真理 え？

定美 だから全部理解して、その上でみんなで仲良くしたかった。真実を知って欲しかったの。

真理 ……？

定美 隠し事をしないのがアンビエントのルールでしょう？

真理 ……。

定美 先輩たちが総支配人を裏切るわけない、絶対。でも、真実を伝えることって難しくて……うまく出来たわ。真理ちゃんが口火を切ってくれたお

陰だね。ありがと。

真理 じゃあもともと、そのつもりで？

定美 良かったみんな仲直りしてくれて。

少しの間

真理 違うでしょ？ おかしいじゃないですか？

定美 何が？

真理 また、また支配されるんですか？ それ（輪っか）だって……。

定美 これは存在意義よ。（輪っかを持って）

真理 ただの輪っかが……？

定美 そう。私は何でもするよ？ っていうかしてあげたい。私鈍いし、疑

問なんかない。……面倒。

真理 もっと自由になりましょうよ？

定美 自由？ ……面倒。

真理 鈍くなんかないじゃない。頭いいじゃないですか定美さん。

定美 だけど面倒なんだよね。

真理 私たちの夢は、友達じゃないんですか？

定美 （怒って）るっさいなあ。あんたが考えればいいでしょう？！

真理 ……定美さん。

定美 （輪っかを握って）これは存在意義よ。

真理 ……。

定美 寿子先輩……真理ちゃん……私……総支配人。……島さん、寿子先輩

……真理ちゃん、総支配人……

定美を見ている真理。

すると階上から笑い声が聞こえてくる。

声に誘われて、輪っかを持って出て行く定美。

さらに笑い声が聞こえる。

真理は振り切るように背を向けると、窓のある倉庫へと向かう。

そして、首に掛けた輪っかを思い切り引きちぎる。

真理は、まっすぐに外の世界へと向かって行く。

暗転

終